黒色綺譚カナリア派　第七回公演

リュウカデンドロン

～サーカステントか幼馴染の赤いスカート～

作　赤澤ムック

二〇〇七年八月一五日～一九日　中野ザ・ポケット

登場人物

辰田千早　（ちはや）　下働き少年の想いは野望へと
松山末乃　（すえの）　少女の一途さと頑固は紙一重

滝川羽巳　（はやみ）　女団長の待ち人はすぐ傍に
稲葉茉俊　（まつとし）　支配人の視線は作家の其れか

露ギリオ
戸田シラジ

火を噴く親友の頭は悪いが根は良いものだ
曲芸師の発想は短絡的だが的を得る

八重シゲ
奥山アキ

ロバ好き道化の口の悪さは友情か。相棒と動きが似る
ロバ好き道化の口の悪さは友情か。相棒と動きが似る

小川なつ
高砂マツ
篠原しのぶ

玉乗りは縁の下の力持ち
見習いは口の突っ込み方だけ一人前
軟体人間は酢が嫌い

逢坂カズラ
若名ユキ

豪腕巨人の荷は作り上げた幻か
空中ブランコは宙から降りて来られず

滝川督朗（とくろう）　幻の団長は足音もせず
小倉みゆき　愛人は遠い日の悪夢

昭和三十五年。夏。日本にカラーテレビが誕生した年にサーカス団が解散。
西洋に憧れるもチンドン屋を抜け出せぬサーカス「リュウカデンドロン一座」だ。

サーカス団在りし日、サーカス団解散の夜、数年後、十年後を物語は行き交う。

だらだらと録音の前説が流れる。
劇団公演としての其れは、次第にサーカスの其れに。

オープニング

華やかなサーカスがあったとは思えない閑散とした場。
舞台はボロ雑巾を広げたような状態だ。萎みきったテント。
見てはいけない貧しさ、汚さ、舞台奥中央にテントの入り口が見える。

その入り口から幻の団長が千早末乃と手を繋いで登場。
団長は中央へ、千早末乃は左右手前に進む。
千早の手には壊れたビデオカメラが。千早はテント内を撮影しているフリをする。
彼は映らないカメラのレンズ越しに世界を覗く事が好きなのだ。映画監督気分。
末乃はしゃがみこみ、団長の声に耳を塞ぐ。

団長　　レディースアンドジェントルマン。サーカスの舞台を借りたこの茶番劇は、数多の、手に取る程の価値もないお戯れの一つにすぎません。お帰りはあちらから、さようなら

女団長がボロ雑巾のような姿で、奈落よりのそりと。
人には、美しい女性には決して見えない。沼の藻のようだ。
女団長には、団長どころか千早末乃の姿さえ見えず。
もごもごと喋っている、身振りをつけて。聞き取れない程度に。

女団長　　さてお待ちかね、当サーカス最後の曲芸は今世紀最大のサプライズ。人間ロケットは天高くテントの端から端へアンドウトロワ

女団長が悦に浸っていると、舞台の奥に幻の愛人の姿が見える。
女団長は気付かない。未だぶつぶつと悦に。

愛人　あんた、ここのサーカスの団長さんなんだってね
団長　ええ。鞭振るうより脳のない団長です。そして来月にはもう少し南の町へ
愛人　じゃあ私は、もう少し北の方へ
団長　意地が悪い女だぁ
愛人　そうなのよ、団長さん
団長　僕には美しく聡明な妻がいるんです。妻は人間ロケットなぞやってのける優秀な団員です、花形です目玉です。そして子供が二人、幾つか前の町で拾い子をしてね。ここには団員達も大勢いる。だからきっと、僕がいなくても大丈夫

団長は、愛人に誘われるまま踵を返す。
団長と愛人は抱擁。

団長　さようなら。さようなら。我が愛しのサーカステントよ

千早が団長へ向かい手を振る。
女団長は激しい動作で去り行く二人の後姿を振り返る。

女団長　いかないで。いかないで。いかないで

団長はクルリと振り返り、女団長へ手を振る。

女団長　あー

団長と愛人に入れ替わり、支配人が登場。

女団長　あぁ
支配人　はやみさん
女団長　若いねぇ
支配人　もう、お客さんがたくさん来ています。ほら
女団長　ああ、これは夢だ。また、同じだ
支配人　貴女の出番だ
女団長　気が狂った私の白昼夢だ
支配人　こんな所でわめいてないで

女団長　（わめく）ならばどうしてあいつらを見せるの。気違いってのはさぁ、愉快なものじゃないの、嬉しかった記憶ばかり反芻するものじゃないの

支配人　もうお化粧は充分でしょう

女団長　あはははははおんなじだ

支配人　しっ。静かに

女団長　独り我が身を抱いて眠る夜の思い返しは、いつも此処から始まり此処へ帰る。伸ばした手は決して届く事なく、いくら声張り上げようとも、誰にも一つもその声が届く事はない！　私から発せられるものは何処へも届かない、ただ、私へは押し寄せる、在りし日の皆が私目掛けて押し寄せる、否応無しに、音楽が、そして闇だ

支配人　始まるよ

女団長　・・・あの人は、どこへ行ったの

ボロ雑巾は華やかなサーカステントへ。テントがピンと張る。
舞台の様々な場所から現れるサーカス団員達。
在りし日の姿。客席から楽団が登場。
女団長の姿は、ボロから赤いワンピースへ。
末乃の姿は無い。千早は舞台の端でそれを撮影し続けている。

支配人　さてお待ちかね、当サーカス最後の曲芸は今世紀最大のサプライズ。リュウカデンドロン一番人気のこの演目、超奇天烈衝撃的演目、人間ロケット。こちらに現れし、深紅美貌見目麗しき当サーカスの女団長が、爆薬百キロの大型ロケットに乗り込み、皆様の頭上高く、テントの端から端までひとっとび

女団長は戸惑いながらも、皆の笑顔に応えてみせる。
がしかし即座に団員達の姿は失せ、女団長だけが残る。

女団長　見事あの的に命中したなら、ご喝采を…

嵐の前触れ。雷が遠くに。
女団長は自嘲しながらも、愛しいその衣装をつまんで見詰める。

女団長　らん、らら、らんらんらん、らん、らら、るんるんるん…

鼻歌で歌うは主題歌。
入り口に、ゴミ漁り帰りの末乃の姿が見える。

末乃　ただいま。降ってきそうだよ。・・・その衣装は、もう着ないって約束したのに

女団長　あんたは、あの人、奪ってった女？

末乃　・・・・・・・・・・・・・

女団長　なぁにしに来たのよ

末乃　みんな来てくれるかな。ご飯の用意するね、お母さん

末乃は退場。団長が奈落の穴より姿を見せている。

女団長　みんな

雷鳴。

女団長　・・・・・嵐だ

女団長の意識は、また深い霧の中へ。
撮影し続ける千早の後ろに、支配人の姿が見える。

支配人　壊れているカメラだ

千早　(兄と慕う支配人の登場に喜ぶ)

支配人　何も映さないし、そう、テープだって入っちゃいない

千早　(支配人の語意が分からず)

支配人　映らないだろう

千早　(ううん、でもこうやって覗いていると楽しいよ)

支配人　ああ、間違えた。知らなかった事が悔しいから、壊れたカメラのせいにしたいんだな。僕はこんなに見詰めていたのに、カメラが壊れていたからさぁってね

千早　(支配人が自分を指摘している事に気付く)

支配人　自分の格好を見てみろよ。今の君が、そんな洋服着ているはずないじゃないか。だから、これは君が映しそこねた惜別の日だ

千早　(自分の姿を見る)

支配人　これは君が映し損ねた惜別の日だ。それともカメラは直ったのかい

うす暗いテント内に、団員達がまばらに登場する影が見える。

千早　（首を横に振り、納得し）十年前

暗転。

録音の支配人の声だけが響く。

支配人　これにて本日の公演は全演目終了となります。お帰りの際は手前のお客様から順序良く規律正しく理性を持って笑顔で律儀で譲り合いの精神で。・・長らくこの町に愛されてきたサーカス、リュウカデンドロンは本日をもちまして終了となります。ありがとうございました。また、皆様にお目にかかる日を、団員一同心より楽しみに。ありがとうございました、さようなら、また会う日まで、さようなら、ごきげんよう

第一場

昭和三十五年。

照明がつくと、サーカス衣装のままの団員達が散らばる。

サーカス閉幕の夜。

千早が書類を持っている。皆を見回す。

末乃も片隅に。何か片付け物をしながら。

千早　配ります

なつ　千早、どうせならお酒配ってよ、目が潰れるようなやつ

ギリオ　うわははは

シラジ　ぎゃはははははは

皆は動かない。千早は意識を改めて皆へ書類を配る。

千早　それぞれ、近場でまとまって支配人と一緒に挨拶まわりしようって。明日からの人もいるし、ちょっと間が空く人もいるみたいなんだけど

支配人　相手先に紹介状を出してあるし、私がちゃあんと一人ずつの事、話してある。先方も良い人ばかりだし、働きやすい所だよ

団員達はそれぞれの新しい職場を見せ合う。
逢坂とユキにだけ、書類は配られず。

シラジ　サーカスが、良いなぁ
なつ　馬鹿じゃないの、あんた
ギリオ　馬鹿はねえよ、なっちゃん、皆本当はそう思ってるよ
マツ　散々文句垂れてたのにねぇ
しのぶ　片手の逆立ちも出来ないくせにぃ
シラジ　ロバが言う事きかねえからだよ
アキ　馬鹿、ロバのせいにするなよ
シゲ　俺らには大人しい良い子だよ、馬鹿シラジ
アキ　なあ
女団長　今は時期が悪いのよ。どこも見習い入れたばっかの頃だから、新しいの入れてる余裕がない、分かるでしょう。空きが出来たら真っ先に連絡くれるようなってるから。支配人が色々頭下げに行ってくれたんだよ、感謝しな
しのぶ　練習続けなきゃね
なつ　逆立ちしながら缶詰つめな
ギリオ　(爆笑)
シラジ　ギリオが笑うなよ
ユキ　ねえ
逢坂　(笑ってごまかす)
マツ　私も、頑張ろう。あんたも、お酢、飲み続けなきゃだわよ
しのぶ　・・(嫌な顔)。ユキは、なんで無いの。あんただけ他のサーカス
ユキ　(カズラを突く)・・
ギリオ　やっぱり空中ブランコは違うわ
シゲ　稼ぎ頭は
アキ　そりゃ声かかるでしょ
シラジ　俺も、連れてってくんねえか
逢坂　違うよ、そんなんじゃない

テンポの良い給料配りが始まる。

支配人　じゃあ、お給料を配ります。マツさん
マツ　はい

女団長　ありがとうね
マツ　（支配人からお給料を受け取り）ありがとうございました
支配人　しのぶさん
しのぶ　はい
女団長　ありがとうね
しのぶ　こちらこそです
支配人　なつさん
なつ　（受け取りに行くが声が出ず）
女団長　どうした、なっちゃん元気だせ
なつ　はい
女団長　ありがとう、頑張れ
なつ　頑張ります、ありがとうございました
支配人　カズラさん
逢坂　はい
女団長　厳しい世界だと思うけど、頑張ってね
逢坂　ええ、やるだけやってみます
女団長　ありがとう
逢坂　お世話になりました
支配人　ユキさん
ユキ　はい
女団長　ありがとう。幸せになるんだよ
ギリオ　嫌だなぁ、ユキと会えなくなるの
シゲ　そうだよ、今からでも遅くないよ
シラジ　俺達はこれからもずーっとユキの事、愛してるからな
アキ　カズラが嫌になったら、すぐ訪ねて来いよ

男達は「愛してる」「別れろお」「俺の元へ来い」等と、好き放題叫ぶ。

逢坂　お前ら、最後だからって言いすぎだぞっ
ユキ　・・・ちょっと待って下さい、私、何にも聞かされてないんです
支配人　内緒
逢坂　（うなづく）
支配人　後で言う
逢坂　余計な心配かけるかなと思って
ユキ　知らないところで色々決められる方が嫌よ

逢坂　反対されるかと思って
ユキ　もう聞いちゃったんだから最後まで話して。でなきゃ離婚よ
逢坂　あー
ギリオ　万歳
逢坂　そんなこと言わないで。勘弁してよユキ
シラジ　夫婦喧嘩だ
しのぶ　あは
シゲ　相変わらず尻に敷かれてるなぁ
アキ　体の大きさと態度の大きさは反比例するんだよ
逢坂　プロレスに誘われて
ユキ　プロレス
逢坂　プロレス、カーニバルレスリングっていうんだって、カーニバル、な、なんだか通ずるもの、あるでしょ
（仰天している）
ユキ　（女団長と支配人へ後押しを求めながら）リングネームが、また格好良いんだよ
逢坂　それ、受けてきたの
ユキ　キングカズラア
ギリオ　すっげえ。
シラジ　男の格好つけなんだから、誉めてやんな
女団長　でも
ユキ　相談受けたんだよ、色々、何度も
支配人　全然知らなかった
ユキ　ごめんよ
逢坂　そっか。カズラがラジオとかテレビなんかに出れば、団長もサーカス心配
しのぶ　になって、帰ってくるかもしれないしね
シゲ　うわ

沈黙

なつ　皆ちゃんと外の世界でやってけんのかしら
女団長　自信持ちなさい
シゲ　でも結局、力になれなかったじゃないですか
アキ　だから解散じゃないですか
女団長　なに言ってんだい。私だけなら即日解散だよ、ねえ

支配人　（苦笑い）
ギリオ　そうなったら良いなぁ
なつ　あんたが一番心配だよ
ギリオ　（慌て）そうじゃなくて団長が戻って来てくれたら良いなぁって
千早　いいよ、もう
シラジ　お前がよくてもさ
千早　いいよ
アキ　馬鹿、空気を読め
ギリオ　ごめん俺、馬鹿だねぇ
シラジ　さっきからよー、馬鹿呼ばわりしすぎじゃねえかー
ユキ　だからって
しのぶ　いや、カズラにゃ頑張ってもらわなきゃ
逢坂　精一杯稼ぐよ
末乃　団長はここにいるじゃない
女団長　・・・（笑って）最後の日だってのに、いつものまんま、やかましいなぁ
支配人　続けますよ
ユキ　ああ、ありがとうございました
支配人　シラジさん
シラジ　（照れくさそうに）あい
女団長　しっかりね。ありがとう
シラジ　あい。・・・ありがとうございました
アキ　泣いてるよ
シゲ　泣いてますね
シラジ　ありがとうございました
シゲ　ばーか
アキ　ばーか
シラジ　（シゲアキへ寄ろうとするもギリオになだめられ）
支配人　ギリオさん
ギリオ　（号泣している）はい
女団長　湿っぽくなるでしょ、みんなの門出なんだから、ほら、男だろ
なつ　団長がいなくなってからの三年間、みんなで頑張れて良かったです
しのぶ　楽しかったです
マツ　はい
ギリオ　ありがとうございました

皆も各々、女団長へ感謝の言葉を。

女団長　今まで本当にありがとう。私も忘れないよ。みんな達者でね

シラジとギリオは抱き合って泣いている。
そのままシゲとアキを巻き込んで地面へ崩れている。

なつ　支配人も、ありがとうございました
シゲ　離れても、忘れません
アキ　遊びに行きますから
支配人　ああ
しのぶ　いくら入ってた
なつ　（激怒）あんたは
ユキ　連れてってよ
逢坂　ん
ユキ　その、プレロスとやらに。ちゃんと見てみなきゃ信用ならないんだから
逢坂　ああ。俺、絶対にユキのこと幸せにするから。俺、必ず幸せにしてみせます。誓います
ユキ　うるさいぃ
逢坂　・・・じゃあ、みんな、俺達は
なつ　私らも行くよ
ユキ　カズラのプロレスデビューを祝して、みんなに奢ってもらおうかしら
ギリオ　皆で
シラジ　いい店、知ってるよ
マツ　あーたーしも飲むー

皆は、入り口で振り返り、残る皆へ挨拶を。

マツ　さようなら
ユキ　また、どこかで（退場）
逢坂　お元気で（退場）
シラジ　また
シゲ　ありがとうございました
アキ　支配人、じゃあ明日また
ギリオ　お前は来ないのか

千早　うん、後で行くよ
なつ　ばいばい
しのぶ　またね
支配人　さようなら
千早　さようなら
末乃　置いてってよ、その衣装。どうする気、捨てちゃうの

末乃の唐突な語気の強さに、皆は呆気。

末乃　それともちゃんと洗って、アイロンかけて畳んで仕舞っておいてくれるの。それでもいつか箪笥の肥やしでしょう、いつかは引越しなんかで邪魔になって捨てちゃうんでしょう。脱いでってよ、私がちゃあんと畳んで仕舞っておくから。また皆でサーカス始められる日の為に、私がちゃあんとしておくから。・・・それとも要らないの。もう終わってしまったからって要らないの
千早　やめろよ
末乃　だって許せないもの
千早　皆だって、我慢してんだから
末乃　千早は良いの
支配人　良くない。誰も良いだなんて思っていない
女団長　末乃、みんなに謝りなさい
なつ　いいんです
アキ　うん
ギリオ　見損なうなあ
シゲ　みんな、脱ぎがたいだけだから
しのぶ　え
マツ　ね
なつ　何年これ着てると思ってんのさ
末乃　本当、ごめんなさい
シラジ　捨てちまえるくらいなら楽なのになあ
ギリオ　今夜はこのまんま酒場行っちまおうか
シゲ　えー
アキ　化粧ぐらい落とさせてくれよ

皆、再び談笑しながら退場。

女団長　ごめんね
末乃　え
支配人　（女団長へ）大丈夫
末乃　（女団長を傷つけたと気付き、退場）
千早　（末乃を追いかけて退場）
支配人　大丈夫ですよ
女団長　情けないねえ
支配人　僕らも行きますか
女団長　みんなの門出だもんね
支配人　・・・貴方にとっても新しい門出でしょう
女団長　うん
支配人　サーカスは終わった
女団長　うん
支配人　ね
女団長　うん
支配人　・・・・・・・・・・
女団長　うん
支配人　（関係のない動き）
女団長　（うなづく）
支配人　（大声で）ぱーっといこうか
女団長　（驚いて）
支配人　はい。もう、気を張らないでいいんだよ。明日から君は
女団長　炭酸水を作ります
支配人　もっと良いとこ見つけられなくて申し訳ない。似合わないね、炭酸水
女団長　そんな事ないわ。はじける感じがお似合いよ
支配人　・・・・・・・・・・・・・
女団長　（支配人の視線を避け）さあ行きましょうか。ぱーっと
支配人　そうしましょう

女団長と支配人は退場。
幻の団長が姿を現す。誰も居ないテントを見回す。
泣く末乃と、千早が戻ってくる。

千早　泣かないで

末乃　飲みに行くんでしょ、行けばいいじゃない
千早　末乃も行こう
末乃　また、つまんない事を言って、台無しにしてしまうわ
千早　みんなも末乃の気持ち分かってるよ
末乃　私一人で駄々をこねて
千早　こねちゃえば良いんだよ。シラジやギリオも酔っ払ったら、きっと末乃よりもずっとこねるよ
末乃　お母さんさ
千早　うん
末乃　私らいない方が良いのかな
千早　どゆ事
末乃　拾ってもらって、もう何年
千早　七年
末乃　七年か
千早　ねえ末乃
末乃　なによ
千早　僕らって、本当に兄弟じゃないのかな
末乃　似ていないもの
千早　そうだよね。似ていないものね
末乃　千早は兄弟の方がいい。だったら兄弟でも良いわよ、分からないんだし
千早　ううん、兄弟じゃない方がいい
末乃　そうよね。私もこんな弟は嫌だわ。手がかかりそうで
千早　弟。末乃が妹だろ
末乃　千早が弟よ
末乃　妹だよ
末乃　弟
千早　妹

じゃれあう二人

末乃　邪魔かなって思うの。七年も世話になったんだから、恩返しするならまだしも、私らがくっついてたら、お母さん、ずっとお父さんの事、忘れられないかなって
千早　帰って来なかったね
末乃　うん

千早　どうして居なくなっちゃったんだろ
末乃　ね
千早　僕がくっついてたら邪魔
末乃　え
千早　(カメラを末乃へ向ける)
末乃　やめてよ
千早　壊れてるから映らないよ
末乃　それでも、なんだか恥ずかしいもの
千早　変なの
末乃　二人で、お母さん守ろうね
千早　うん
末乃　早く大人になりたいわ
千早　大人になったら、僕は映画監督になって二人を楽させてやるよ
末乃　どんな映画を撮るの
千早　今世紀最高のサーカス
末乃　うん
千早　或るサーカスの団長夫婦が二人の拾い子をするんだ。女の子はそのサーカスの花形になって、男の子は映画監督になる。それで、サーカス閉幕の夜、彼女の最後の舞台を、彼は最高の映画にするってお話
末乃　私達ばかり目立って、皆に悪いわね
千早　監督の特権だよ。それで映画を撮り終わった千早は、その女の子にこう言うんだ・・・

ギリオとシラジが騒ぎながら登場。

ギリオ　いたいた
シラジ　なにやってんだよ
千早　ああ
シラジ　あ、お邪魔しちゃった
ギリオ　まっずいぞお俺達
末乃　そんなんじゃないわよ
シラジ　きっついね
ギリオ　サーカスってのは強い女を育てるのかね
シラジ　お前も来いよ。みんな始めてっぞ
千早　うん

ギリオ　お前いなきゃ俺つまんねえもん
千早　行こう
末乃　・・・
千早　最後の駄々をこねるんでしょう
末乃　うん

四人は退場。
幻の団長が皆へ手を振る。
暗転。

第二幕

テントが少し萎む。

昭和三十八年。
食料を買い込んだ女団長が登場する。
ここで生活をしている様だ。
忘れ物を思い出し、女団長は退場する。
千早がカメラを片手に登場。テントの隅で入り口にレンズを向ける。
なつ、しのぶ、マツ、アキ、シゲが登場。
サーカステントを懐かしんでいる。

シゲ　変わってないねぇ
アキ　ああ
なつ　あんたも変わってないもん
アキ　そうかあ
しのぶ　なんでまだあるんだろう
マツ　ね
シゲ　そっちの三人はよく会ってるの
なつ　同じ工場だもん。嫌でも顔合わせるよ
マツ　なっちゃんとしのぶちゃんは同じベルトなのよ
しのぶ　あれからも毎日お酢飲まされてるよ。しつこいんだから
なつ　そっちも上手くやってんの
アキ　まあね

シゲ　こないだ支配人に会ったよ
しのぶ　懐かしい
シゲ　町の喫茶店で、珈琲飲んでドーナツ食べてた
アキ　相変わらずだったよな
マツ　支配人も誘えばよかったのに
アキ　連絡先を聞き忘れて
しのぶ　詰めの甘いとこは相変わらずねぇ
千早　支配人にも会いたかったな
シゲ　うわぁ
アキ　千早
千早　いい画が撮れた
なつ　相変わらずだなぁ
しのぶ　直したの
千早　ううん、壊れたまんま
マツ　壊れてちゃ映画は撮れないよ
千早　いつかね
シゲ　びっくりさせやがって

末乃の姿が見える。

マツ　わあ
シゲ　末乃だ
末乃　久しぶり
アキ　変わってないなぁ
シゲ　そればっかになっちゃうね
アキ　三年ぶりって微妙すぎて他に感想でねえもん
末乃　みんな元気そう
なつ　元気よ。労働の日々よ
マツ　あんたは
末乃　私もおんなじ
千早　久しぶり
末乃　ええ
しのぶ　あら、二人会ってないの。千早と末乃はてっきり一緒に暮らしてんだと思ってた
末乃　どうして。勤め先も違うわよ

なつ　違うったって狭い町だしねぇ
マツ　もう遠慮する必要もないじゃない

ユキが登場。

アキ　ユキ
なつ　懐かしい
シゲ　よかった全然変わってない
ユキ　みんなも。まるで変わってない
シゲ　カズラと同じ体型になってたらどうしようかって心配してたよ
アキ　夫婦は似るって言うからな
ユキ　（苦笑）
なつ　カズラは、やっぱり来られないって
ユキ　ええ。この時期は地方遠征だとかで忙しいから
しのぶ　ユキはついて行かなくて大丈夫なの
ユキ　ご免だわ、あんな男臭い集団。サーカスの頃のが随分マシなくらいなんだから
アキ　観たよ、テレビ。工場の奴らみんな集めてさ。すごかったなぁ
シゲ　こんなに早くテレビに出ちゃうなんてね
しのぶ　私も観たわ
マツ　外人相手にさあ
なつ　片手で振り回してたよね。サーカスの頃より力ついたんじゃない
マツ　凄いわよね
ユキ　トリオの試合だもん、まだまだよ。早く一人立ちしてもらわないと
シゲ　客席映るたびにユキ探したよ
ユキ　やだ
アキ　なかなか居ないもんだね
ユキ　私、ああいうの好きじゃないから行かないの
アキ　そうなんだ
しのぶ　見守ってやれば良いじゃない亭主の晴れ舞台
ユキ　ごめんだわ
マツ　勿体無い
ユキ　ありがたがる気がしれないわ
しのぶ　有名人の奥様は違うわあ
ユキ　こういうのが買えるようになったのはありがたいけれど、ここにいた時の

方が、のんびりしてて良かった。なにせ三年前とはまるで逆。柄じゃないのにスターのフリしてさ。私はあの人が調子に乗りすぎて落っこちない事を祈るので大忙しよ

アキ　相変わらずだね、いいね

シゲ　いい

ギリオが登場する。

ギリオ　（喜びの奇声をあげる）

千早　ギリオ

ギリオは一人一人の顔を見ては喜んでいる。

その間に、アキとシゲがテント内に誰かが生活している形跡を発見。

シゲ　アキ

アキ　シゲ

ギリオ　なんであるんだよ、なんであるんだよまだここ

なつ　私も聞いて驚いたわよ

マツ　ね

しのぶ　まさかねぇ三年も経つのにねぇ

末乃　ちょっとお散歩に来たら驚いちゃった

千早　末乃が見つけたの

末乃　うん。最初の頃はよく来てたんだけど、忙しくって間が空いて、もう取り壊されちゃっただろうなって来てみたら

ギリオ　うわあ変わってねえなぁここも皆も

アキ　お前もな

シゲ　乞食かな

アキ　じゃないか

なつ　なに

シゲ　誰か住んでるみたい

アキ　そりゃ使うよな

末乃　（悪い予感がする）

千早　どうした

末乃　ううん

しのぶ　あらー

なつ　管理する人なんていないもんね
しのぶ　粗大ゴミみたいなもんだからね
なつ　空き家って言いなさいよ
ユキ　よく潰れないものだわね
末乃　最近、連絡がとれないの
千早　ん
ギリオ　駄目だよ追い出さなきゃ。俺達のテントだぞ
シゲ　俺達のテントってお前
アキ　お前に言われると何だかなあ
ギリオ　なんでえ
末乃　お母さんと、とれないのよ
ギリオ　バリケードでも作っておくかあ！

と、鍋を持つ女団長が舞い戻る。
団員達は歓声を上げる。

女団長　どうしたの、皆集まって
ギリオ　(奇声)
シゲ　なんだよお前ら内緒にしやがって
女団長　ん
アキ　やっぱり女団長がいなきゃ同窓会にはならないよな
シゲ　こうなると支配人への失敗が手痛くなるね
なつ　女団長
マツ　わあ
しのぶ　ご無沙汰してます
女団長　ああ、うん
ユキ　(咳払い) 女団長の言ってくれた通り、カズラ、逢坂カズラは立派に稼いでくれてます。彼の背、押してくれてありがとうございました
女団長　そう、そりゃ良かった
アキ　あ、見てないんですか、試合。聞いた事ありませんか凄い人気なんですよ
シゲ　大スターですよ
なつ　あたしなんて工場で自慢しちゃってるもんね
ユキ　まったくもう
女団長　そっかそっか。あぁ末乃も、千早もね
千早　ご無沙汰してます

末乃　お母さん
女団長　やだ、やめてって言ったでしょう。こんな大きな子供いるってなったら、再婚も出来やしないじゃない。ねえ

女団長は鍋を手で飼い殺し。
皆が、鍋を持つ女団長の姿に違和感を覚え始める。

女団長　なんだ、こんな集まりあるんだったら報せてくれれば良かったのに。まずったな、一張羅でも着ていれば良かった、久しぶりに会うのに、こんなボロじゃ、格好つかないじゃない
アキ　もしかして女団長
女団長　そう、その呼び方ももうやめてよ。私、今は炭酸水作ってんだから、せめて所長とか普通の人が聞いても変に思わないようなやつでお願いね
シゲ　はやみさん
女団長　そうそう、本名でも勿論良いわよ
末乃　私もここに住んでも良い
千早　え
女団長　なに言い出すの
末乃　私もここに住みたい。一緒に暮らしたい、駄目かしら
しのぶ　えー。ここ、女団長が住んでたんだ
マツ　(しのぶを殴ろうと)
女団長　・・(酷く動揺しつつ) 住んでるっていうか、見に来たら、後ろ髪曳かれて、私の工場近いしさ。あったかい間は、不便が無いからと思って、つい。あはは、解散の時、皆に威勢の良い事言ったくせに、示しがつかないな
なつ　そんな事ありません
マツ　女団長、一番ここ大切にしてましたもの
女団長　示しがつかない。顔、洗ってくる

女団長は退場。皆は静まり返る。

シゲ　・・・そっか
アキ　幽霊の正体見たりだな
しのぶ　乞食の正体見たり、じゃない
なつ　あんたそれ女団長の前で言ったらぶっ飛ばすからね
しのぶ　なんでよ

ユキ　こんなとこに住んでるだなんて、ねぇ
末乃　良いじゃない、ここに住んだって
シゲ　落ち込むなぁ
末乃　どうして
千早　やっぱりさ、忘れられないんだね。父さんの事
マツ　待ってるのかな、団長の帰り
ユキ　ずっと
なつ　そうだよ、あんなにお似合いの夫婦、そう無かったもん
アキ　どれくらい住んでるんだろう
シゲ　かなりだよ
しのぶ　そうだね、ずっとだ
末乃　昔は皆ここで寝泊りしてたじゃない
シゲ　そりゃそうだけど
ギリオ　何か出来ないかな
千早　何かって
ギリオ　世話になりっぱないじゃねえか、女団長に。ずーっと。そんな女団長がさ、辛い思いしてんだろ、だから何か出来ないかな、するべきなんじゃないかな
しのぶ　たまにはマトモな事も言うんだ
ギリオ　何かさ、なんだろ
なつ　シゲ、アキ、あんたらの職場に良い男いないの。団長を超えるような色男え
シゲ　いたっけ
アキ　お見合いさせようって
末乃　新しい恋が必要だわよ
なつ　なっちゃん、それ良い考えだわさ
マツ　いねえよ
シゲ　俺らみたいのばっかだよ
アキ　ここ、ずっと女団長が守ってたのかなぁ
ギリオ　そうだろうね
千早　・・・心配だわ
末乃　うん
千早　格好よくいてほしいもんな。ユキのとこはどうだ
ギリオ　女団長が気に入るような美形はいなけど、他の手助けは出来ると思うわ
ユキ　そっか、ユキにゃカズラがいるもん、たのもしいな
ギリオ

ユキ　うん
なつ　マツ、あんたの兄さんは
マツ　駄目よ結婚決まっちゃったもの
しのぶ　余計なお世話なんじゃないの
ギリオ　余計だってもさ

女団長が戻ってくる。

ギリオ　あ。あああ
シゲ　また来ます。来月にでも、また来ます
女団長　そう、・・・ゆっくりしてけば良いのに
アキ　じゃあ
シゲ　逞しいのと頭が良いの、どっちが好きですか
女団長　え
なつ　好み
マツ　女団長の
女団長　・・・頭が良いのかな
ギリオ　はい
なつ　また来ますから
千早　じゃあ
女団長　うん
千早　末乃は
末乃　あ、もうちょっと・・・
千早　近いうちに、会おう
しのぶ　(ひやかし音)
末乃　うん、そうだね
ギリオ　じゃあ、お邪魔しました

女団長と末乃を残し、皆退場。

末乃　お母さん
女団長　もう違うってば
末乃　私も、ここに居ちゃ駄目
女団長　不便だよ
末乃　慣れっこだよ

女団長　千早と、うまくやってないの
末乃　うん。久しぶりに会った
女団長　馬鹿だね
末乃　会いにくいもんなんだよ。離れちゃうとさ。昔は、一緒にいるのが当たり前だったから。あんまり当たり前の事だったから
女団長　離れちゃ駄目だよ
末乃　じゃあさ、昔みたいに一緒に家借りようか
女団長　（強く強調し）ここから離れたくないの
末乃　・・・ねぇお母さん、仕事、本当に続けてるのえ
女団長　本当に、炭酸水、ちゃんと勤めてるの
末乃　（参ったな）
女団長　ねえ
末乃　辞めたよ。こっからじゃ遠くって
女団長　そう
末乃　ちゃんと新しいとこ探してるから、安心して
女団長　そう

舞台前。テント外。歩いている千早とギリオ。

ギリオ　なあ、お前さ、今の仕事どうだ
千早　それなりにやってるよ
ギリオ　そっか
千早　ギリオ
ギリオ　シラジから連絡あったんだ
千早　ああ、元気にやってるって
ギリオ　あいつさ、カズラんとこで働いてるらしいんだよ
千早　そうなんだ
ギリオ　誘われたんだ
千早　お前が
ギリオ　おお。なんでもよ、カズラが会社作ったってよ。レスラー辞めて社長だよ、逢坂プロレスだって、すごいだろう。人手が足りないんだって。俺に手伝ってほしいって。あぁ勿論あれだよ、シラジも俺もレスラーじゃねえよ
千早　行こうと思ってるの
ギリオ　おお

千早　ふうん
ギリオ　お前もどうだ
千早　僕
ギリオ　俺一人じゃ心細いんだよ
千早　でも僕は
ギリオ　頼む。それでよ、一旗上げねえか。カズラみたいに立派になって、金いっぱい稼いで、お前、末乃の事を食わせてやりゃ良いじゃねえか。なんなら俺も乗っかるから、女団長と合わせて二人にちゃんと家借りてやって。あぁ末乃はお前と暮らすから、一軒で良いか、一軒で良いな

千早　話が突飛だなぁ
ギリオ　惚れてんだろ
千早　・・・・・・
ギリオ　あいつだって、同じだぜ
千早　決めつけるなよ
ギリオ　同じだって。な、俺達今のまんま働いたって一生日の目見れないよ。カズラみたいにデカイ事やって、挑戦しなきゃいけねえよ

千早　ギリオ
ギリオ　俺は本当のこと言うと今の工場が嫌なんだ。嫌っていうのとは違うな、悲しいんだよ。辛いだけの仕事でさ、紹介してくれた支配人には悪いけど、あん時みたいな気持ちにゃなれねんだ。お客さんから拍手貰った時みたいな気持ちにはさ、な、分かるだろ

千早　僕、芸も教えてもらえなかった下働き役だよ
ギリオ　馬鹿、そんなこと言ってるんじゃねえって
千早　ごめんごめん
ギリオ　分かった。じゃあお前の分まで俺が稼ぐ。お前が今のまんまで満足してんなら、俺も一人でやってみせる。んで、そのカメラだって新しいのに買い換えてやる。任せておけよ、俺にゃ末乃やユキがいないから、お前が俺の女房だ、頼りにしてくれよな

千早　ちょっと待てって
ギリオ　カズラの事だって、ちゃんと逢坂さんって呼ぶぜ
千早　分かったから
ギリオ　なにを
千早　分かったよ。・・・僕だって、今の仕事、楽しいわけじゃないからさ
ギリオ　本当
千早　ああ

ギリオ　やった
千早　仕方ないなぁ

千早がカメラを覗こうと。
舞台から、末乃の姿は無く。

女団長　泣きません。貴方が居ない事よりも、悲しい事は過ぎました。欲しがった心無い今は、頬骨の硬さを思い出そうと、サーカステントの土の上、掌置いてみるのみです。私は、いつになれば、ただの女と呼ばれるのでしょう。督郎さん、貴方と一緒になってみれば、余計な肉の一つもない、ただの魂の人となれますか

第三幕

昭和三十二年の記憶。
サーカス開演前。団長失踪事件。
うなだれる女団長の許へ皆が集まる。皆、作業途中で、中途半端に衣装を身に纏う。
支配人の姿は無い。音楽をチェックする者がいたり。

ギリオ　千早
千早　どうしたの
ギリオ　団長が、居なくなっちまったって

ギリオは皆の許へ。千早は舞台前からカメラを回す。

シゲ　団長居ないの、羽已さん
アキ　もうお客さん集まって来てるよ
なつ　休演のビラ作ろうか
アキ　羽已さん、いつ居なくなったの
シゲ　どこ出かけたの
しのぶ　もお団長ったら
ユキ　カズラ、探しに行ってよ大声張り上げて
逢坂　うん、団長いなかったらユキ、梯子登る時、危ないもんな
シラジ　探しに行って来よう

マツ　ああう
女団長　あのね
シラジ　どこ行ったんだろう、まったく
女団長　・・・団長はね
なつ　とりあえず看板立てとく
しのぶ　こないだの嵐ん時のやつ、とっておいて良かったわね
シゲ　羽已さん、一緒に行く
マツ　探しに行かなくちゃ

皆が各々動き出す。女団長だけが座り込んでいる。

女団長　もう帰って来ないのよ
マツ　う
女団長　違う、団長は、サーカス、皆を放って出て行ったんじゃないの、捨ててったのでは、けして無いから。ごめんね、昨日の夜に出て行ったんだ。つまんないことで喧嘩してさあ
ギリオ　なんだ夫婦喧嘩かあ
女団長　ええ
シラジ　犬も食わねえな
シゲ　まったく団長ったら
アキ　ふてくされてブラブラしてんだろ
シラジ　じゃあもうすぐ帰ってくんな
カズラ　俺たちだってなあ
ユキ　よくやるもの
しのぶ　もし、ずっと帰って来なかったら
マツ　(怒り)縁起の悪い事いうなあ
なつ　帰ってくるって、おしどり夫婦だもん
ギリオ　犬も食わねえんだぞ
シゲ　そうだよ、ロバだって入れたばっかりで
アキ　団長が俺らのこと見捨てるわけないじゃないか
女団長　女が一緒だったんだ。知らない女。我慢すれば良かったんだけどさ、私、短気起こしちゃって出て行けって啖呵きっちゃったのよ。そしたら団長も団長で、売り言葉に買い言葉でさ。あれだよ、古女房に愛想をつかせただけ。・・・ねえ、皆、追いかけるよりも、今夜もこのまま公演やりましょうよ、やってやるのよ、昨日と同じように。団長がいなくてもできるぞっ

て、大丈夫だもの、そうじゃなきゃ、団長帰ってきにくいじゃない
シラジ　こんな時まで団長の心配かよ
なつ　まったく、羽已さんは人が好いっていうか何というか
ユキ　だから団長がつけあがるんだよ
マツ　もう
女団長　あはは、ごめんね
シゲ　仕方ねえなぁ何とかするか
ギリオ　追いかけないの
アキ　待ち伏せ作戦だ
なつ　梯子はカズラが押さえる事ね
逢坂　おう
シラジ　団長、公演中はあんまり役に立たなかったから大丈夫だよ。芸するわけでなし
ギリオ　うん
シゲ　団長が帰って来るまで、支配人が団長代理か
ギリオ　そういうの支配人ダメ、照れちゃう
しのぶ　じゃああんたやんなさいよ
アキ　羽已さんが、女団長でどうだ
シゲ　女団長
なつ　それいいじゃない
しのぶ　聞いたことないもの
シラジ　団長も驚いて反省するよ
ユキ　俺の場所がって
ギリオ　良いな、それ良い
しのぶ　新しくって良いんじゃない。人間ロケットの女団長
マツ　格好いいわ
アキ　やってやろうよ
シラジ　なめ腐った団長に仕返だよ
ギリオ　ぎしし、女団長
マツ　だめかなあ
女団長　じゃあさ、女団長から皆に一つ提案があるんだけど

末乃の姿が入り口に見える。

女団長　あの人が、団長が戻ってくるまで。それまでこのテントは動かさないでお

きましょう
ギリオ　行き違いにならないよに
女団長　（うなづく）どこにも行かない。リュウカデンドロンはどこにも。それでも良い。思いついたの、日本初、劇場型サーカスよ
マツ　羽已さん
なっ　女団長
女団長　マツ、なっちゃん
シゲアキ　女団長
女団長　シゲアキ
シラジ　カッコいいよ、それ
ギリオ　女団長
しのぶ　日本初
女団長　しのぶ、シラジ、ギリオ
ユキ　日本初、花形空中ブランコ
逢坂　ユキちゃん
女団長　任せたよユキ、カズラ。千早と末乃はどこ行った。準備してるのかな

団員達は盛り上がっている。
と、幻の団長が奈落の穴より姿を現す。
団員達の歓声の中、女団長の悲鳴。

女団長　（悲鳴）

団員達は歓声をあげ各々の準備に取り掛かる為、テントを出て行く。
千早と末乃は微動だにせず。

女団長　団長、督郎さん・・・

幻の団長は、女団長へ「君も下へ来るかい」という身振りをして、再び穴へ。
女団長は穴に近付き、その奥を覗き見る。
テントは更に萎む。
昭和三十九年。

末乃　どうしたの
女団長　昔の夢を見て

末乃　お父さんの
女団長　違うよ

千早がカメラを下ろすと、千早の登場になる。

末乃　千早
千早　末乃
女団長　いらっしゃい
千早　半袖じゃ、もう寒いや
末乃　ね。お母さんこれ着て
女団長（末乃が差し出す上着を羽織る）
末乃　どうしたの
千早（ポケットから給料袋を取り出す）これ
末乃　・・・・・・・
千早　ほら。遠慮するなって
末乃（女団長をチラリと見る）カメラ、直したの
千早　ううん
末乃　直しなよ
千早　次の給料で直す。受け取って。母さんと二人で、新しい洋服買いに行ったりして
末乃　・・・ありがとう
千早　出世したんだから
女団長　立派になっちゃって
末乃（金額に驚く）どうしたの、これ
千早　カズラのとこで働いてんだ。ギリオとシラジも一緒。まぁ色々大変だけどさ、その分こんなに貰えるんだぜ。すごいよ、カズラはもう芸能人だね
末乃　そう。本当に凄い（女団長へ袋を渡す）
女団長　わあ
千早　部屋だって借りられるだろう
末乃　そんな
千早　毎月ちゃんと渡すから
女団長　自分の為に使いなさいよ
千早　使ってるよ。母さんと末乃が喜んでくれたら、それが一番・・・
末乃　ありがとう

女団長が思いつめた顔をしている。
感無量なのかと千早末乃は喜ぶ。

千早　　えへへ。照れくさいや。水飲んでくる

千早は退場。末乃は女団長の雰囲気がおかしい事に不安がる。

女団長　二人に聞いてもらいたい事がある
末乃　　なに
女団長　ずっと、私が死ぬまで秘密にしようと思っていた事があるの。でも、聞いてもらった方が良いのかもしれない。こんなに貴方がた二人には世話になっているし、迷惑をかけているもの。内緒事しているのが、ひどくずるいように、思えて。いえ、それよりもまず、私は
末乃　　なあに
女団長　償わなけりゃいけないのよ、団長の
末乃　　お父さん
女団長　私は、貴方がたに、団員みんなに嘘をついたの
末乃　　言わないで。聞きたくないから
女団長　言わせて末乃

千早の姿が入り口に。

女団長　こうして嘘を重ねていくのが、このサーカスの為だと思ったんだけれども、私は本当は、この嘘が自分の為だけであって、他の誰の為でも無いって気付いたの。私は、こんな風に貴方がたに良くされるような人間じゃないわ。団長も、督郎さんもそんな私の狡猾さに気付いたのね、きっと。千早に給料まで持ってこさせて、あんなに良い仲間達を騙して。嘘をついて。ねぇ末乃私は本当は団長・・
末乃　　言っちゃ駄目
女団長　言わせて末乃
末乃　　騙し続ければいいじゃない
女団長　私は貴方がたを騙してる。・・・え、今なんて

末乃は千早に気付き、慌てて女団長の言葉を制す。

千早　（驚いて）どうしたの
末乃　（絶叫）なんでもない
千早　・・・・・・・
末乃　（またしても強く）千早には関係ない話
千早　どうして
末乃　関係ないからよ、ね、お母さん
女団長　（笑って）言わない
千早　そっか。それなら良いや、分かった。じゃあまたね
末乃　千早
千早　それで、美味しい物でも食べに行って

千早は退場する。
末乃は入り口まで千早を追いかけ、走って行ったであろう後姿を見詰める。

女団長　言わない。もう、言わない

テント内は暗闇へ。舞台前。
千早を探しているギリオ。足早に登場する千早。

ギリオ　千早、早いね
千早　うん
ギリオ　なんて格好してんだ
千早　この方が良いかと思ってさ
ギリオ　どうだった。喜んだ
千早　うん
ギリオ　そっか。良かったな
千早　うん
ギリオ　女団長も変わりなかった
千早　うん
ギリオ　三人で飯でも食ってくれれば良かったのに
千早　いや、女二人の方が、良いみたいだから
ギリオ　そうかあ
千早　会社戻るのかい
ギリオ　おお
千早　僕も戻るよ

ギリオ　そんな格好で行ったら驚かれるぜ
千早　大丈夫。車ん中に背広入れてあるから

足早に退場する千早とギリオ。

その数ヶ月後。
テント内は、なつ、マツ、しのぶ、シゲ、アキ、ユキが。
末乃と談笑している。

アキ　だから言ってやったんだよ
シゲ　俺達は元道化師だぜって
ユキ　格好いいじゃない
マツ　実生活でもピエロってのはいただけませんね
末乃　あはははは
なつ　女団長、その後、どう
末乃　ああ
しのぶ　どこ行ってるの
末乃　廃材でも探しに行ったのかな。こないだの雨の日に、あっち崩れたから
なつ　危ないじゃない
アキ　俺達見てこようか
末乃　うん、お願いしたい
シゲ　いいのいいの。俺らにゃ文化遺産みたいなもんだから
末乃　ありがとうね、みんな
マツ　えへえ
なつ　お礼言われるような事してないわよ
しのぶ　してるわよ。みんなでお金集めて渡してんだから
ユキ　あら。そういう言葉は額の一番少ない人に言われたくないわ
しのぶ　額の問題じゃないでしょ、気持ちと行動の問題でしょ
なつ　恩着せがましく言わなくったって良いじゃない
ユキ　どうせなら私一人でも良いのよ。女団長と末乃、二人を養うくらい何ともないわ
シゲアキ（歓声）
しのぶ　嫌な女
ユキ　どっちが
アキ　まあさ、実際ユキが一番たくさん出してるんだし

しのぶ　カズラが、でしょう
ユキ　（しのぶに飛び掛る）
マツ　わあ
しのぶ　ほら、本性現した

なつとマツに取り押さえられるユキ。

ユキ　ごめんなさい。つられちゃった
しのぶ　怖い怖い
マツ　あんたは
なつ　みんな思いは一緒なんだから。そんな額とかさ、つまんない事で言い争うのやめようよ。ね、競争じゃあるまいし
シゲ　そうだよ。俺ら誉められたくてやってるわけじゃないんだし
アキ　故郷を守ってるみたいなんもんだな
シゲ　うまいこと言うね
アキ　文化遺産にゃ負けますよ

女団長が角材を持って、コソリと登場。挙動不審だ。

ユキ　おかえりなさい

女団長には聞こえていない。一心不乱に何かを探している。

なつ　女団長
マツ　お邪魔してます
アキ　やりましょうか
シゲ　代わりますよ

シゲアキが女団長に寄ると、女団長は猫のように退いて目で威嚇。

末乃　皆に、迷惑かけたくないのよ。きっと

女団長は、綱を見つけて再び退場。

しのぶ　なにあれ

末乃　ちょっと夢中になってるのよ

少しの沈黙

アキ　俺達やった方が良いのにな
なつ　ね。危ないもの
シゲ　行ってみる
末乃　大丈夫よ。きっと自分で直したいのよ
ユキ　ちゃんと食事してるの
末乃　うん。私も細々だけど働いてるし、みんながらも助けてもらってるし
しのぶ　おかしいんじゃないの
シゲ　馬鹿
しのぶ　もうやめた
シゲ　おい
しのぶ　もうやめた。もういい。私はここで降りるわ、さようならリュウカデンドロン。皆はどうぞご勝手に
なつ　あんた、なに言ってるの
しのぶ　だからさ、皆は続ければいいじゃない。私は、もうやめた
なつ　自分勝手じゃない
ユキ　勝手にさせてあげましょうよ。こんな思いでされたら貰う方だって嫌な気持ちになるでしょう。ね、許してあげよう
しのぶ　許してあげよう・・・。何様
なつ　やめなさい
マツ　なんでよ
アキ　いいよ、もう構うな
シゲ　見損なったよ
しのぶ　もう、お酢も飲まないからね（退場）
末乃　うん
なつ　アンタあんまりじゃない。見損なったわよ

と、しのぶは踵を返して戻ってくる。

しのぶ　じゃあ言わせてもらうけどさ、これが女団長の役に立ってるって、恩返ししてるって本当に思うわけ。ただアタシ達は良い事してるうって思いたいだけじゃないの。いい、みんな忘れてるみたいだけど、ここのサーカスは

潰れたんだよ。終わったの、解散したの。女団長さ、新しい門出だって祝って励ましてくれたじゃない。他所のサーカスに空きが出たら真っ先にって、誰か連絡来た人いる。私らはその程度のサーカスだったんだよ、人間ロケットと支配人に支えられてた能無し団員。いつまでも夢にしがみ付いてないで、真っ当な人生を地道にやりなって送り出されたんじゃない。それなのにこうして集まって、つまんない世間話して傷舐めあって。そんな私らにお金貰って、女団長は喜んでるのかなぁ。ねえ、あれって喜んでる態度。やだやだ御仕着せの慈善事業。勝手にさせてあげようってんなら、私より女団長にさせてやりなさいよ。あんた達が縛るおかげで、頭までおかしくなっちゃってるじゃない

末乃　違うわよ、おかしくなんてなってない

しのぶ　おかしいわよ、シゲアキ、裏回って女団長連れてきなさいよ

末乃　やめてよ

しのぶ　こわあい

末乃　皆、またいつかサーカスやるんでしょ、その日の為に集まってるんでしょ

しのぶ　末乃、あんた怖いわ

しのぶは退場。

なつが追いかける。

ユキ　いいわよ追いかけなくて。考えが違うってのは仕方のない事だもの

マツ　でも

ユキ　ここで説得したとしたら、今度は私達がしのぶを縛るって事でしょう

マツ　ユキは賢いねぇ

シゲ　なあ

アキ　ユキ、俺ら考えたんだけどさ、例えばここを、カズラんトコの会社で買い取ったり出来ないもんかな

ユキ　え

シゲ　専属ステージ・・・、みたいな具合にさ

ユキ　ああ

なつ　それ、良い考えじゃない

アキ　そうすりゃ、サーカスじゃなくても、ここ、また賑わうだろ

シゲ　活気が出りゃ、女団長だって喜ぶだろう

マツ　そうだねえ

ユキ　うん。いい考えね。じゃあ私がカズラに掛け合ってあげる

アキ　カズラはユキにベタ惚れだもんな

喜ぶ皆。

ユキ　任せておいて。カズラ、私の言う事なら何だって聞くんだから

ギリオが入り口に登場。

ギリオ　ユキさん
ユキ　ああ、もうそんな時間
末乃　ギリオ
ユキ　運転手やってもらってるの。お目付け役よ、嫌あね

ユキは皆に手を振って、ギリオと共に退場。

マツ　格好いいねえ。ユキさんだって
シゲ　さっすがあ
アキ　心強いね
なつ　しのぶの奴

女団長が作業を終えたらしく、登場。寝床へ直進しバタリと。

末乃　疲れたみたい
マツ　うん
アキ　疲れちゃうよね
なつ　私らのやってる事って、余計なお世話なのかしら
シゲ　そんな事ねえよ
末乃　そうよ
なつ　また来るわね
末乃　あのね、お母さんはね、またサーカスやりたいって望んでるんだよ。皆の事だって変わらず大事に思ってる。今日はちょっと具合が悪いんだ、朝からあんなだったもの、だからさ
なつ　うん、大丈夫よ末乃

皆、女団長に頭を下げて退場。

忘れ物をしたユキが戻って来る。

ユキ　忘れ物しちゃった
末乃　ああ
ユキ　皆、離れていっちゃうかしら
末乃　どうして
ユキ　（入り口を見て）そんな雰囲気だったから
末乃　・・・・・・・・
ユキ　そんな顔しないの。私も皆に呼びかけるね、忘れないでって
末乃　ありがとう
ユキ　私にとっても、大切な場所だもの
末乃　大人気だったものね、ユキの空中ブランコ。子供から大人から、皆、最前列に詰め寄って、口開けて眺めてたもの。新聞の取材も来た事あったわよね
ユキ　ええ。でも、もう駄目よ、昔の話。すっかり主婦だもの
末乃　今でも私らにとってユキはスターよ。でもって社長夫人か。凄いな
ユキ　そんな事ないわ
末乃　カズラに感謝だね
ユキ　ええ、感謝。末乃も千早に感謝でしょ
末乃　うん
ユキ　運んで来てるんでしょ、お給料
末乃　・・・お給料日にしか、来てくれないけどね
ユキ　贅沢言わないの。他の日はね、遊びに来られないぐらい私んとこで働いてるのよ
末乃　そっか
ユキ　じゃあね

女団長が動き出す。退場。

末乃　あ

末乃も追いかけて退場。
ユキは高みを見上げ、栄光の日々を思い出す。
ギリオが入り口より登場。

ユキ　今だって、出来るわ。毎日訓練しているもの
ギリオ　あんまり長くいられないんだけど
ユキ　じゃあ行きなさいよ。私は一人で帰れるもの
ギリオ　俺が怒られるんだよ
ユキ　じゃあ、ちゃんと送ったって嘘をつけばいいじゃない。どうせ分からないんだし
ギリオ　ここ、居たいの
ユキ　（毅然と）いいえ
ギリオ　あそこから、こっちまで。ユキ、ブランコで飛んでたよな
ユキ　（ゆやーんゆよーんゆやゆよーん）
ギリオ　行こう

第四場

すっかり貫禄のついた逢坂、シラジ、千早が椅子を持って舞台前へ登場。
少し遅れて舞台中よりギリオが参加。
舞台前は逢坂プロへと。ユキがそれを見ている。

シラジ　遅えよ
ギリオ　すいません、ユキさん送るのに手間取って
逢坂　また行ったの。テント
ギリオ　ええ
逢坂　行かせないでよ、もう。何してるんだか知らないけどさ
ギリオ　同窓会みたいなもんですよ
シラジ　へえ同窓会。俺には連絡来ないけどねえ
ギリオ　へへ
シラジ　何が可笑しいんだよ、ギリオ
ギリオ　いえ
千早　話、続けてもいいでしょうか
シラジ　ああ、すまん
逢坂　吉田プロには幾ら送った
千早　前々回のと合わせて二百五十
逢坂　なら、文句も言わないだろ
千早　駄目押ししたいところだけど、そうもいかないか

シラジ　実力行使でいけば良いんじゃないの。社長のお得意の
逢坂　やめてくれよ、もう俺レスラーじゃないんだから
千早　せっかくの賄賂が水の泡でしょう
シラジ　でも欲しいだろ。色物レスラーなら、そこら辺から引っ張ってきて化粧させりゃそれなりだがよ、正統派ってのは中々見つからないぜ
ギリオ　電撃移籍
シラジ　うるせえなあ
逢坂　移籍なんかじゃないよ。馬鹿だなあギリオは相変わらず馬鹿だなあ
ギリオ　いひひ
千早　でも、ま、ちょっとは効果があるかもね、そっちの駄目押しも。まだ浅いから、うちのプロ。なめられて、もっと要求されても適わないし
逢坂　そうかねえ
千早　あれ。いつの間に温厚肌になったんですか
逢坂　あはははは
千早　怖いなあ
シラジ　じゃ、そういう事で。ちょっと向こう騒がしくしておきます
千早　宜しくお願いします。乗っ取りってのは、あんまり派手だと叩かれるだけですから慎重に
シラジ　はいはい
千早　吉田プロが裏を出してきた時の予備線に、五島さんとこ連絡入れておきますね
逢坂　ああ。それと、なんか上等な酒でも送っておいて。あの人、洋酒好きだから
千早　はい
逢坂　じゃあ、そういう事でおつかれさん
シラジ　社長、新聞の取材まで時間ありますけど、どうします

ユキがゆっくりと歩み寄る。

逢坂　どうしたの
ユキ　ううん、家で待ってるのが退屈だから、ジムの見学に
逢坂　嫌いでしょ、汗臭いの
ユキ　じっとしているよりはマシ
逢坂　・・・また何か欲しいの、ギリオに言えば済むだろう
ユキ　ギリオには頼めない物なの。それにそろそろ一緒に歩くのも恥ずかしいわ

シラジ　ちゃんと背広やっただろ
ギリオ　これ、着てますよ。シラジさんのお下がり
シラジ　お前が着ると、別の服に見えるね
逢坂　ともかくさ、あんまりここに来ちゃ駄目だよユキちゃん
ユキ　どうして
逢坂　どうしてって、不自由なくさせてあげてるでしょう
ユキ　ええ、カズラさんに、させてもらってるわ。のんびり、毎日
逢坂　なら良いじゃない。困らせないでよ
ユキ　ねえサーカステント、買収できないかしら
千早　え
ユキ　あそこを買い取って、体育館を作るのよ、どお
逢坂　(溜息) ユキちゃん
ユキ　若手の興行をしたり、思い切って自社ビル建てちゃったりして。スター選手がたくさんいるんだから、それぐらいの冒険、しても大丈夫でしょう
シラジ　あのねユキちゃん
ユキ　逢坂社長に話してるの
千早　無謀ですよ。あそこは立地も悪いし、ビルなんか建てるには川が近すぎる。第一、我が逢坂プロにはそんな博打を打つ元手がない
ユキ　悪い事に使うより良いんじゃなあい
逢坂　酷いなあ。もう、ユキちゃんが酷いこと言うから、俺、頭が痛くなってきたよ

逢坂は席を立つ。

ユキ　家へ戻る。時間あるんでしょう
逢坂　どうして家に戻らなきゃいけないの。勘弁してよ

逢坂は退場。ユキ以外は所在無さげに。

ギリオ　無理言っちゃ駄目だよ
シラジ　送っててもらいな
ユキ　ギリオと一緒はもう飽き飽きよ
シラジ　じゃあ俺とな

シラジはユキの腕を掴んで、ぐいぐいと退場。

千早　僕らはああいう風には決してならない
ギリオ　なに
千早　本気で嫌われてるわけじゃないから、気にするなよ
ギリオ　ああ。ありがとう
千早　それより、良い事を思いついたよ
ギリオ　なんだ
千早　あのテントをさ、こう、プロレスみたいな近代的なホールにすれば、またサーカスの人気が出るんじゃないかな、古臭い赤いテントじゃなく、受付やロビーが整った会場、スターのブロマイドを大きくのばして廊下に貼り付けてさ、パンフレットを打ったり、売店を作ったり
ギリオ　・・・・・・・・・・
千早　あれ
ギリオ　いや、それ良いんじゃないかな
千早　だろ
ギリオ　驚いた
千早　何が
ギリオ　お前、まだあのサーカス生き返らせようって考えてたんだ
千早　うん
ギリオ　えへへへへ
千早　留まってるから、濁るんだ

千早とギリオは椅子を片付けながら退場。

第五場

昭和二十八年の記憶。
幻の団長と、支配人が別の場所より登場。
それは女団長が初めて此処へ来た日の事だろうか。

団長　羽已
支配人　お前が言ってたより別嬪だね
団長　支配人、幼馴染だ
女団長　初めまして

支配人　こちらこそ。何が得意
女団長　人間ロケット
支配人　へえ
団長　珍しいだろう
支配人　ああ。目玉になる
女団長　他の団員さんはどこに
支配人　今日は珍しく、酒も飲まずにそのまま解散
女団長　練習、見たかったなあ
支配人　やる気満々ですね。頼もしい事だ
団長　出港したての座組だからね、少しずつ覚えていけばいいうん
女団長　（女団長の体に触れる）
団長　お前も恋人に負けない芸でも覚えるんだな
支配人　俺は猛獣に鞭ふるうので精一杯だよ
団長　（自分と女団長を示し）猛獣だってさ
支配人　はい
女団長　踏み台持ってこようか。飛んでみる
支配人　いいんですか
女団長　やりたいんだろう
支配人　気が早いな
団長　ありがとう
女団長　一番大きいのは、裏だっけ（入り口へ）
団長　ああ、トラックの荷台だったと思うな。それより猛獣ったって、まだ象しか決まってないだろ、しかも小さい（入り口へ）
支配人　督郎さん
女団長　（振り返る）
団長　誘ってくれてありがとう。私、このサーカステントが気に入ったわ
女団長

嬉々とする女団長に苦笑しながら男性二人は退場。
時間は戻り、現実。
昭和四十年。
なつ、マツ、シゲ、アキ、ユキが登場。
しかし女団長の幻想は終わらず。ブツブツと。

女団長　とっても気に入ったわ。督朗さんのサーカス、ああ、楽しみだなあ

入り口に、幻の団長の影が見える。

ユキ　カズラさん、少し渋っていたけど大丈夫。私の言う事なら何でも聞くんだから

なつ　うまく話が進むと良いわね

マツ　ああ

アキ　な

シゲ　うん

彼らには女団長の奇行が目に入っているのだが、触れられず。

シゲ　ところでしのぶの奴は元気にしてるのかい

マツ　相変わらずよ

なつ　本当に、お酢飲まなくなってさ

ユキ　元から嫌いだったじゃない

女団長　はじめまして

元団員達は絶句する。

女団長　私、明日からここにお世話になる奥山羽巳と申します。団長さん、会いましたか

アキ　いえ

女団長　あたし用に踏み台取りに行ってくれて、それっきり

なつ　そうなんですか

女団長　気が早いですよね。うふふ

マツ　（泣き出す）

女団長はテントを眺めたり、体を伸ばしてみたり。

ユキ　私達、本当に為になる事をしているのかしら

と、背広を着た千早が登場。

シゲ　千早

アキ　どうした格好良いな
千早　ああ、来てたんだ
なつ　久しぶり
千早　うん

千早はチラシとユキに目配せ。ユキは目を反らす。

シゲ　カズラんとこ、羽振り良いんだねぇ
千早　そうでもないよ。見てくれだけ立派にしてるんだ。末乃は
なつ　見てない
千早　（女団長に気がつく）
女団長　（千早の背広に反応する）督朗さん

幻の団長は姿を消す。
女団長は、恥ずかしそうに顔を背け、穴の奥と目が合う。
彼女の脳内が現実に引き戻され、それを拒む事をしなければと静かに考え、寝に行く。
マツが再び泣き出す。

なつ　あんまりだ
シゲ　サーカスを復活させたって
アキ　これじゃ、幕は開かないのじゃないか
ユキ　どうしたの皆、無駄だって分かっててもやろうって言ったじゃない
なつ　それこそ、しのぶの言ってた自己満足だ

末乃が登場。

末乃　聞いて、朗報よ
ユキ　なあに
末乃　支配人、見つかるかもしれない。二人が会ったっていう喫茶店に行ってね、支配人の恋人の家を教えてもらったの、その人に書置き渡してお願いしたわ。来て下さいって
アキ　そっか
シゲ　そうなんだ
末乃　どうしたの

なつ　私、てっきり支配人は女団長の事・・・
シゲ　俺も
アキ　俺もー
なつ　そっか、もう、別の人生歩き出してるんだね。しがみ付いてたのは私らだったのかな
末乃　違うわ、皆・・
ユキ　末乃
末乃　なに
ユキ　これ
末乃　ああ、いつもありがとう。本当に、助かる。最近、立ち退きの話がね、うるさくなってきて。（千早へ）・・・カメラは
千早　いいや、まだ

末乃は給料を缶に詰める。貯金箱だ。

末乃　だいぶ貯まった。新しいテント、もうすぐ買えるわ
千早　テントなんか買わなくて良いよ
末乃　え
千早　新しく作りかえるんだ。小屋そのものを、近代的に、見世物小屋から、きちんと採算の取れるサーカスに。団員達にはそれぞれ毎月給料が支払われる、座組みの一座じゃなく一つの企業として。そうすれば誰も困らないし、より観客が喜ぶ面白いショウを作っていけやしないか
末乃　ショウ
千早　ここに立派な劇場を建てる、このテントもすっかりボロだからね、こんなんじゃお客は寄り付かないさ。先週見積もりを出してみたんだ、ここの整地と・・・、河原だから思いのほか値が張りそうだけれど、でも
末乃　（奇声。ここから末乃は気狂いじみて）そんなこと駄目にきまってるじゃない
千早　なに
末乃　新しく劇場を建てるなんて駄目よ、なんてこと言い出すの、掘り返すって
千早　正気、劇場なんか駄目よ、あーあーあー、駄目よ、駄目に決まってるじゃない
末乃
千早　今と同じで何がいけないの、このまんまだって、みんながちゃんと戻って
末乃　来ればサーカスやれるんだから。あーあ、そんな夢の無いサーカス全然嬉

しくない。勝手な事しないでよね、やめてよ、余計なお世話
なつ　いい考えじゃない。どうしていけないの
末乃　いけないからいけないって言ってるの。絶対許さない
シゲ　女団長だって、このままじゃいけないだろ
末乃　お母さんのどこがいけないのよ
アキ　全然良くなってないじゃないか
末乃　そりゃ、ちょっと具合が悪い日もありますよ
マツ　末乃
末乃　千早が変なこと言うから皆もおかしくなっちゃったじゃない、どうしてくれるのよ

末乃は千早へ八つ当たる。叩く。

末乃　出てって

末乃が千早へ言い放つと、他の皆が出て行く。

末乃　どうしたの
シゲ　もう、いいよ
アキ　やれるとこまで頑張ったよ
末乃　これからじゃない
なつ　これからは、私ら一人一人が自分の事に一生懸命になるの
マツ　さようなら、女団長
末乃　え
マツ　さようなら、サーカステント
末乃　ちょっと待って。捨てちゃうの
なつ　捨てる
アキ　ひでえな
末乃　酷いのは皆じゃない
シゲ　・・・もう付き合いきれねえや
マツ　（泣き出す）
なつ　泣かないの

千早末乃とユキを残して皆退場。

末乃　千早のせいだよ
千早　僕のせい
末乃　千早のせいじゃない、なんだいその服、気落ち悪い、二度と顔も見たくない、大っ嫌い

末乃は退場。

ユキ　捨てるって、いけない事かしらん
千早　空中ブランコの栄光
ユキ　どうして自分で渡してやらないの。恥ずかしいの、そんな年にもなってユキから貰った方が喜ぶよ
千早　久しぶり
ユキ　ん
千早　呼び捨てにされたの、久しぶり。懐かしいわね
ユキ　これからは、呼び捨てのまんまだ
千早　怒られるわよ、逢坂社長に
ユキ　カズラになんか怒らせない
千早　がんばって。だって今、私全然楽しくないもの。ここに劇場を建てるのも楽しくないわ。ねえ千早、あんた本当にまだ、続ける気
ユキ　ああ、母親と妹の為だ
千早　妹。何をどう続けたって、女団長はあんなんだし、あんたが追い掛け回すほど、末乃はああやって逃げ回るじゃない
ユキ　だからこそ商売として成立した箱を作ってやるんだ。それさえ出来りゃこんな所で乞食暮らしをせずに済む。近所の子供にお化け屋敷呼ばわりされる事もない。平和になってみれば、こうして意地を張ってる事が馬鹿らしい事だったと気付く
千早　意地
ユキ　意地だろう。二人でこそこそ、傷舐めあって。そろそろ引き戻さないと連れ去ってやればいいのに
千早　君らみたいにはなりたくないんだ
ユキ　私が地上に降りたのが間違いなのよ
千早　このサーカスの間違いはなんだったんだろね
ユキ　声かけてく
千早　いいや、かけないで出る。急がなくちゃ。だから、もう来ない

千早とユキは退場。

第六場

幻の団長が現れる。

団長　そして皆はただ己の目の前に広がる草っぱらに、つく、柔らかな踏み跡を辿り、薄汚れの川から、少しずつ、遠くなってゆくのでした

昭和三十二年の記憶。
幻の愛人の姿が見える。彼女は団長に寄り添い。

団長　羽已
女団長　なに言い出すの、貴方がいなくなってサーカスが続けられるわけないじゃない
団長　大丈夫。有能な君と、優しい僕の親友がいる
女団長　捨てないで
団長　何を
女団長　何を
団長　私を
女団長　サーカスを
団長　夢、見過ぎちゃったのだね。羽已。ここは君が言うほど素敵な場所じゃあない
愛人　可愛げのない女。こんなのが貴方のお嫁さんだったの
団長　昔は、もう少し可愛らしい女だったんだよ、今じゃこんなに筋肉隆々で、まるで男だ。リュウカデンドロン
愛人　ドロンドロン
女団長　ねえ、お願いちゃんと話しましょうよ
団長　なんのお
女団長　ね、貴方ちょっと外に、行ってて、二人で話しするから
愛人　嫌あよ
女団長　行っててってって言ってるでしょ泥棒猫
愛人　（失笑）

団長が、愛人に飛びかかろうとする女団長を制する。

愛人　おお怖い。奥様、レディーっていうのは亭主の前で、歯、むき出しにするもんじゃなくってよ。それにしても、サーカスのテントって、明りがついていないと気味が悪いのね。まあ、貴方のそれそっくりよ。その中も暗くて不気味なんでしょうね。スカートん中でサーカスすれば良いじゃない、玉乗りとか

女団長　なにをおお

愛人　外で待ってるわ

愛人は退場。

女団長　どういうつもり。あんな女連れて来て、私を納得させようって魂胆、どこのサーカスの曲芸師よ、あれ。あぁ、ホステスさん。借りてきたのわざわざ

団長　諦めよう。サーカスなど、もはや前時代的遺物だ

女団長　どうして、今日だってあんなにお客さんがたくさん来てたじゃない

団長　私の夢はこんな小さなものだったっけ・・・

女団長　ちいさくなんてない

団長　羽已

女団長　聞きたくない。私、もっともっと、このサーカス守り立てるわ。督郎さんのサーカス

団長　それならば、いつまでもそこで頑張ってれば良いじゃないか。君にはたくさんの仲間もいる

女団長　貴方を慕って集まった仲間よ

団長　さようなら、リュウカデンドロン。また逢う日などございませんよう

女団長　行かないで、サーカスを捨てるだなんて許さない

団長　私の、サーカスなんだろう。私は私の物を捨てるんだ

女団長　捨てないで

団長　なにを

女団長　サーカスを

団長　さようなら、羽已

踵を返す団長を、背より抱きしめる女団長。

そのまま、体勢を変え、肘を絡めての絞殺。

女団長　捨てないで捨てないで捨てないで

団長は抵抗するも、力尽き。女団長は団長の亡骸を抱える。

女団長　このサーカスに、貴方は必要なのよ。貴方にだけそれが分かっていない。貴方の猛獣ショウ、皆心待ちなんだから、貴方、知らないでしょう

亡骸と抱擁する女団長。
登場する支配人。

支配人　羽已さん
女団長　愛してる

状況を掴み、しゃがみこむ支配人。

支配人　なんて事を
女団長　（泣いている）
支配人　（女団長と団長の亡骸を離そうと）
女団長　（噛み付きのような抵抗を）
支配人　痛い
女団長　嫌だ
支配人　しっかりしろよ
女団長　・・・・・・
支配人　そこの女、追っ払ってくる
女団長　性格悪いよ
支配人　そんなような顔してるもんな

支配人が入り口へと。
女団長は、穴に気がつき、そこへ団長の亡骸を落とす。

女団長　そこから、私達を、このサーカスを見守っていて、ずっと、ずっとよ。もうサーカスは移動しない。ここで、ずっと貴方と共に在る。リュウカデンドロンは貴方、もう何処にも行かない貴方

入り口に、末乃の姿が見えた気がする。
女団長は、舞台始めのボロを纏って退場。

昭和四十四年。
支配人が一人登場。
ゆっくりと中まで入り、穴のあった土を見下ろす。ゆっくりと土を踏む。
と、逢坂とシラジ、ギリオが登場。すっかり暴力団の風貌。

シラジ　誰だ
支配人　ああ
ギリオ　支配人
シラジ　ご無沙汰してます
ギリオ　何年ぶりですか
支配人　さあ
逢坂　どうも
支配人　久しぶり
逢坂　ユキちゃん、見ませんでしたか
支配人　いいや、さっき来たばかりだから
逢坂　てめえら突っ立っとらんと見て回れやあ

逢坂は入り口から外へ回る。

ギリオ　よく、来るんですか
支配人　いいや、あれから二度目。一度目はどちらにも会わずに帰った
シラジ　来てねえんじゃないか
ギリオ　そうですね
支配人　元気そうだ
ギリオ　はい
シラジ　やめて下さいよ、そういうの
ギリオ　シラジさん
シラジ　思ってもいないくせに。落ちぶれたって思ってるんでしょう、落ちぶれましたけど、金だけはありますから
支配人　そうか。良かったな
シラジ　ふざけてんのか手前
ギリオ　支配人だろ、やめろよ

逢坂が再び登場し、とりあえずシラジとギリオを吹き飛ばす。
髪型の変わった千早が登場する。

千早　遅いよ。お前らいつまで待たせる気だ
シラジ　ああ、すいません
逢坂　すいません
千早　嫁相手に大騒ぎして。こいつら使って。待たせて。職務怠慢だね。借金返せないよ、元、社長さん、逢坂プロレスですが
逢坂　なに。肩代わりしてやってるじゃない。我が、吉田プロがさ
千早　（小声）お前が寝返ったからだろ
逢坂　支配人
千早　やあ
支配人　ご無沙汰してます。えっ・・・十年ぶり、十年ぶりだ。シラジ、そいつ蹴って来い
千早　え
シラジ　外行って、蹴って来い
千早　やめなよシラジさん
ギリオ　立派になって。見違えるようだ
支配人　興行会社の専務になったんですよ。凄いでしょう。今度やる万国博覧会にも呼ばれてます。引き抜きでね
千早　出し抜き
支配人　はは。そうですね。シラジ
千早

シラジは逢坂を引き連れて退場。

千早　ここ、来週には工事が始まりますよ。僕が買い取ったんです。お化け屋敷だなんだって気味悪がられてたから安い買い物だった。立派なサーカスの劇場を作るんですよ、あの頃、皆で言ってたじゃないですか、世界初の劇場型サーカスだって。それをね、復活させる日が来たんです。しかも、あの頃なんかよりずっとずっと大きな規模で
支配人　すごいねえ
千早　その為の、今までですから
支配人　そうか

千早　おかげでギリオは、俺と口をきいてくれなくなった、部下なのにね
ギリオ　・・・・・・
千早　支配人にも図面見てもらいたいな。助言して下さいよ、色々と
支配人　いや、僕はもう支配人ではないから
千早　そういえば、名前、なんでしたっけ
支配人　稲葉です
千早　稲葉さ・・
ギリオ　呼びにくいから支配人のまんまで良いですか
支配人　参ったな
千早　そうだ、母さんと、妹の口説き落としもお願いしたい。勧告のビラ届けたって、不動産屋が説得に来たって追い返すそうなんですよ、角材持って（失笑）襲うんだって
支配人　妹
千早　ええ、妹と思っています。家族の愛情なら見返り求めずに済むでしょう
支配人　末乃は喜んでいるのかい
千早　さあ。長いこと会っていないから分かりません
支配人　どうして離れたりしたんだ
千早　女二人の方が、良いみたいだったからです
支配人　君がついてなくてどうするんだよ
千早　俺はこうして
支配人　千早
千早　・・・じゃあ支配人はどうなんです。お前はどうなんだよ。父さんに遠慮でもした。ああ、父さんと同じように逃げ出せば、母さん今度は自分を待つって思ったわけか。何だよこの服、どこで買ったんですか
ギリオ（千早を吹き飛ばす）
千早　何すんだよギリオ
ギリオ　やめろよ、馬鹿、お前、千早、お前なんかにサーカス作れるわけないよ

半狂乱のユキが入り口から飛び込む。

ユキ　お願い、誰かとめて

ギリオと支配人が飛び出し、怪我をする逢坂と更に酷い怪我をしたシラジを連れ込む。

ユキ　何、馬鹿な事してるのよ
逢坂　（怒号）女はすっこんでろお。おい、千早
千早　その嫁さんが大事なんだろ、見失わないでよ
逢坂　（ユキの身体検査。手形を発見）
ユキ　返して
逢坂　盗んだのはユキちゃんだろう（手形を千早の足元へ叩きつける）
千早　やめて下さいよ。それ、大切な物なんだから
逢坂　お金は大切ですからねぇ
千早　貴方にとっても、必死に稼いできた金でしょう。それ、ここの資金なんだから、ちゃんと渡して下さい。ね、みっとも無いですよ
ユキ　（手形をさらう）
逢坂　（ユキへ）なあんで俺の邪魔ばっかするんだよー
ギリオ　やめなって

乞食然とした末乃が角材を持って登場。

末乃　なあんだ、お前らあああああ

暴力団と勘違いし、襲い掛かる。が、ギリオとユキに気がつき、そして皆をも。

末乃　（喜びに震え）どうしたの、みんな
支配人　末乃
末乃　支配人、やっと、来てくれた。みんなどうしたの、随分大人になったんだねえ。これでやっと、サーカス、また始められるの
逢坂　ふざけたこと言ってんじゃねえぞ

千早、逢坂をどつこうとするも末乃に制される。

末乃　仲間でしょう
シラジ　あはははははは
ギリオ　サーカスやりてえ
千早　工事は、来週から
末乃　駄目だって言ってるでしょう、ここはこのまま、このまま
千早　このままで、どうなる
末乃　皆が戻ってきて、またサーカスを始めるの。支配人が口上述べて、お母さ

んが人間ロケットよ、ね、ユキもやってくれるわよね空中ブランコ

ユキ　・・・・・・・

末乃　カズラもさ、シラジどうしたの、そんなに怪我して。喧嘩したの、駄目だよ

シラジ　苛められてんだよ

末乃　誰に

シラジ　千早に。みーんな、苛められてんだよ

末乃　(千早を睨む)

千早　なあに。俺はただ、ここにサーカスを取り戻そうと考えているだけだよ

末乃　ユキ、やってくれるよね、空中ブランコ

ユキ　カズラさん

カズラ　触らるなよ、痛いんだよ、ここ、痛いんだよ

ユキ　・・・空中ブランコ。あは。私、何歳だと思ってるの、あれから、どれだけ時間が経ったと思ってるの

末乃　そんなの関係ないよ、だってユキのブランコ凄かったもの

ユキ　そろそろ、やめて

末乃　なにを

ユキ　そういう目で見るの。諦めて。千早もさ、諦めてよ。サーカス、そんなもの戻さなくていいじゃない、なんの意味があるの、誰がまたすぐサーカスなんか出来るって言うの。私、カズラ、女団長

末乃　諦めないで、ほら支配人だって来てくれ・・

ユキ　諦めってのは、良い思い出に使う言葉よ。私は諦めたんじゃなく、捨てたいの。捨てさせてよ末乃。皆も、ちょいと私が後押ししたら、あっという間に捨てて行ったじゃない。あんただけ。あんたが覚えている限り、私は忘れられない。待っていたの、惨めになって、綺麗な思い出に後ろ足で砂かけて去る日を。その日こそが私が栄光の日々を全部捨てられる輝かしい日よ

末乃　忘れなくたって

ユキ　お待たせいたしました本日のメインイベント、空中ブランコの美少女はテントの端から端までひとっ飛び・・・ねえ支配人、この先、なんでしたっけね。もうないのよ、私の乗るブランコ。あの人に乗っかるしかないの。あの人だけで満足しなきゃいけないの。私は自分がブランコ乗っていたことさえ忘れなきゃならないの。

逢坂　別れるか。いいよ、無理強いさせてただなんて、気付かなかった。贅沢ばっかり並べて、女のくせに仕事に口だして、挙句の果てに金庫は荒らすわ、

見つかれば隠すわ
ギリオ　犬も（食わない）
逢坂　満足しなきゃいけないの。まだお前満足してなかったのか欲が深いねー
ユキ　ええ、強欲なのよ、あんたも、そういうの好きでしょう
逢坂　誰が
ユキ　好きでしょカズラァ。女の一人くらい満足させなさいよ男ぉ
カズラ　だから稼いだだろ
ユキ　ね、末乃、諦めなさいよ。地上に降りちゃった空中ブランコの顔を立てて、ここ、大切な思い出も全部まとめて捨てなさいよ
末乃　嫌だ
ユキ　無責任にこんな事やってる方は良いわよね
末乃　私が守るんだ
ギリオ　やめなって、お願い、やめよう

逢坂、立ち上がり退場しようと。

ギリオ　カズラ
逢坂　支払い済んだから、もう良いだろう
シラジ　（立ち上がり）ユキも連れてけよ
千早　雇ってやってもいいよ、ここに
ユキ　働くわけないでしょう。こんな所。せいぜい二人で、女団長と三人でサーカスやってれば良いじゃない、そしたらね、私、ここに火ぃ点けてやるんだから
シラジ　カズラ
ユキ　うるさいわね

ユキはカズラの腕を掴み、のしのしと。

逢坂　家も、売りに出すぞ
ユキ　出せ出せ
逢坂　洒落じゃないんだぞ
ユキ　シラジ、ギリオ、行かないの
逢坂　ユキ
ユキ　・・・行かないのね（退場）
逢坂　痛い、ユキ（退場）

シラジ　今度は俺らでみつけます
ギリオ　えへ・・へ・・・

ギリオとシラジも逢坂夫婦の後を追い。

支配人　追わないの
千早　リュウカデンドロンは、解散したんでしょう

と、ギリオが踵を返し、千早へカメラを渡す。

ギリオ　直しておいた
千早　ああ、いつの間に
ギリオ　撮る時あったら、声かけてくれよね
千早　お前さ
ギリオ　待ってよー

ギリオはドタドタと退場。

末乃　なにを撮るの、それで
千早　工事の日に、また来るよ
末乃　今世紀最大のショウ
千早　新しい劇場の、こけら落としでも撮るか

千早は静かに退場。
と、入り口で女団長を発見し、千早は女団長をテントの中へ。自身は退場。

支配人　羽已さん
女団長　うわあ
支配人　ご無沙汰してます
女団長　（支配人の頬に触れて）本物だ。年、とったね
支配人　（苦笑）
末乃　ねえ、お母さん、さっきまで皆来てたんだよ。ユキにカズラ、シラジとギリオ
女団長　そう
末乃　そうだ、工事が始まる前に、また皆集めればいいんじゃないかな。きっと

来てくれるよ、なっちゃんとか、マツにしのぶ、シゲアキ元気にしてるかな。ね、そうして、このテント、このまんまでも大丈夫って伝えるの。支配人も来てくれますよね

支配人　ああ

末乃　来週の工事が始まる前に、うん、絶対にいい考えだわ。ね、お母さん

女団長　そう

末乃　あ。まだ間に合うかしら

末乃は飛び出していく。退場。

支配人　貴方の傍には、いつも僕よりも貴方を想う人がいる

女団長　(聞いているやらいないやら)

支配人　ずっと、ここに居たんですね

女団長　・・・・・・え

支配人　(穴を眺め、近付き、膝をつく)

女団長　安心して、もうあの人、どこにも行かないから

支配人　掘り起こされますよ

女団長　目が覚める事、あるかしら

支配人　十三年も前だ

女団長　猛獣は熊がいいと思うの

支配人　・・・

女団長　と言っても、小熊よ

支配人　・・・そうですね、手配しておきますよ

女団長　皆が来るの。おめかし、しなくちゃ

女団長は瓦礫の中を漁る。

女団長　行くの

支配人　ええ

女団長　そう、じゃあね。あれ、やってるの、まだ、口上

支配人　全然

女団長　やらなきゃ、腕、落ちるよ

支配人　皆、きっと、また来ます、来ます。だってここには貴方がいるんだから

女団長　(穴へ向かって)熊どうお

支配人は退場。雷鳴。

女団長　嵐だ

第七場

一週間後。暴風波浪警報が響く。
揺れるサーカステント。
雨合羽を着る末乃が飛び込んでくる。

末乃　皆が集まる日だってのに、これじゃ、バスも走らないよ
女団長　テントが
末乃　吹き飛びそう。大変、人を呼んで来る（退場）
女団長　皆。皆か。会いたいなあ。会いたくないなあ

女団長はテントを仰ぐ。

女団長　こうしてまた、去ってゆくんだね。そんな風に力を籠め、剥ぎ取ろうって魂胆でしょう。あの人と私のサーカス。皆呼んで、いっぺんに剥がすんだ。そんなに離れたいか、ああ分かった。こんなにも迫るか、こんなにしてまで消え去りたいか。許してください。・・・もう反芻する夢にも疲れました、自分を責め、貴方思い出す喜びが、どれほど馬鹿か知りました。確かな明日があれども、決して幕の開く事の無いサーカスがあれば、どれほど小気味良いでしょう。ありませんもんねえ。後生だから、この人殺しと、あと少しだけ共に。ごめんなさい、あなた。捨てないで、捨てないで、捨てないで、私を

穴より、幻の団長の両の腕が女団長を誘う。
女団長は、笑顔でその両の腕に従う。
落雷。
暗転。
花道で支配人と千早が遭遇。

支配人　千早

千早　なんですか、何しに来たんです。見世物じゃないんだ。自分の後悔、取り戻すためなら帰ってください。末乃はずうっと傍にいたんです

支配人　飛ばされるぞ、テント

千早　それが

支配人　あそこには僕が大切にし損ねた人が二人いる。古い友達が二人いるんだ。行かせてくれないか。ありがとう。末乃もいるんだよな

千早　何

支配人　え

千早　誰のこと

支配人　何が

千早　支配人

支配人　なんだい

千早　その格好に革靴、似合わないですね

支配人　実際、僕もそう思うんだけどね

千早　そう

多分、この間尺では厳しいと思うのだが、しかし。
彼らが入り口から飛び込むと、そこには柱を抱える末乃の姿が。
そして、柱の先には、首を吊る女団長の姿が。
嵐は、テントを、柱を揺さぶる強風をもたらす。

末乃　連れて行くなー。連れて行くなー

千早と支配人は立ち尽くす。
千早が末乃へ近付くと、激しく拒絶される。

末乃　テントが飛んでいってしまうのよ。母さんと父さん、離れ離れになってしまう。終わらせない、サーカスはここで、ずっと、ここで。・・・支配人、ぼーっとしている場合じゃないわ、私、初めての一代芸よ、ほら、盛り上がるよう口上入れて

支配人　・・・・・・

末乃　支配人、女団長の最後の晴れ舞台よ、口上入れて

支配人　・・・レディース・・

末乃　そう

千早　誰も、来なかったんだ

支配人　（瓦礫より帽子を発見し被る）・・・さてお待ちかね、当サーカス最後にして最大の曲芸は今世紀最大のサプライズ。リュウカデンドロンの秘密兵器、怪力少女のお出ましだ。関東全域を覆うこの大嵐が過ぎ去るまで、彼女の細腕が見事、支柱を離さずおりましたら御喝采

千早　誰も来なかった

千早はカメラを取り出し、撮影を始める。

末乃　せめて、せめてこの嵐が過ぎ去れば、きっと皆がやって来る。お父さんとお母さんに会いに、サーカスやりにきっとくる。ねえ千早、今世紀最大のサーカスよ

支配人　地の底眠る団長と、天かける女団長とを繋ぐその柱を、見事離さずにおりましたら、どうぞ盛大なる拍手を。当サーカス、リュウカデンドロン最終演目

千早　末乃

嵐は、テントを吹き飛ばす。

暗転。

朝陽に照らされた、壊れたサーカステントの姿が見える。

その瓦礫の中から、吹っ飛ばされて失神してたであろう末乃の身体が見える。

末乃は出ようとしている。

傍らには、カメラを持って座する千早の姿が。髪型は乱れてどうしようもない。

雨上がりの朝霧のごとく佇む、かつての仲間たちの姿。

それは現実か、彼の記憶なのか、定かではない。

幕

二〇〇七年七月七日版